

2023 年度

教職センター活動報告

- ・教職センターについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- ・2023 年度「教職センター」の運営体制・・・・・・・・・・・・・・ 2
 教職センターのメンバー
 教職センターの職務内容と担当教員
- ・2023 年度 教職センター活動報告　・・・・・・・・・・・・・・ 3～21
 諸プロジェクト
- ・教育実習校選定の指針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22～23

2024 年 3 月 31 日 作成

教職センターについて

【教職センター設置の目的】

教職センターは、平成 29 (2017) 年度教育学部教育学科創設に伴い、教員を目指す学生の総合サポートセンターとして設置された。教育学部教育学科等との密接な協力のもと、本学の教職課程及び教員養成に関する業務を充実させ、円滑な運営に資することを目的としている。

【教職センター概要】

初等・中等教員の使命は、子どもたちが、生涯にわたって自分の能力と可能性を最大限に高め、さまざまな人たちと協調・協働しながら、自己実現と社会貢献を図ることができるように、子どもたちが、自ら課題を発見し、それを解決できるよう導くことである。このように、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育むために、課題探究型の学習、協働的学びなどがデザインできる、実践的指導力を有する教員こそ求められている人材である。

しかし、実践的指導力は、教員志望の学生が、将来教育現場でキャリアを重ねるに伴って自然と身につけられるほど容易なものではない。将来教職に就いたとき、教科指導、生徒指導の職務を、著しい支障が生じることなく実践できる資質能力を、大学の 4 年間で身に付けておく必要がある。

本学は、教師に必要な 5 つの能力・資質・スキル

- ①「国際的視野、教養・知性」
- ②「コミュニケーション能力」
- ③「カウンセリング・マインド」
- ④「専門的知識」
- ⑤「実践的指導力」

を備えた「21 世紀に求められる教師」を、大学の授業と併設学校および地元の公立小学校、中学校、高等学校の教育現場での実践（インターンシップ）を通し育成している。

「教職センター」では、これらの資質能力を身につけるため、学生に対して個別の相談や指導を行う。また、教員になるための関門「教員採用試験」に合格するために、「教員採用試験対策講座」を開設し、教師への夢に挑戦する学生を全力でサポートする。

【教職センターの場所】

本学 4 号館 1 階

【教職センターのメンバー】 *敬称略

- ・センター長
- ・副センター長
- ・教育学部専任教員 ・関係職員（教務学生課）

【教職センターの職務内容と担当教員】 *敬称略

諸プロジェクト

(1) 教育実習プロジェクト

- 茨城県担当 埼玉県担当 東京都担当
- 「教育実習アンケート」結果を基にした実習先斡旋依頼、各種手続き等
- 「教育実習の手引き」「教育実習日誌」作成

(2) インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト

- 「ボランティア活動」単位化に伴う担当
- (2)-1・初等教育専攻：開智望小・開智小学校担当
- (2)-2・中等教育専攻：開智日本橋学園担当
- (2)-3・中央区柏学園担当
- (2)-4・柏市ボランティア活動担当
 - ・柏市放課後子ども教室（ステップアップ学習会 柏市立第五小学校）

(3) 養成塾関係

- (3)-1・東京教師養成塾
- (3)-2・ちば！教職たまごプロジェクト

(4) 基礎学力向上・教員採用試験対策プロジェクト

- 企画
- 実務：学部教員全員

(5) 民間企業・公務員（教員を除く）等を目指す就職指導プロジェクト

- キャリアセンターとの連携事業

(6) 「開智国際大学教職センター研究年報」関係

- 「教職センター研究年報 2023」号の刊行準備

(7) 介護等体験関係

- 社会福祉施設、特別支援学校での実施に向けて

(8) ラーニング・コモンズ

- 教職センター活用法の検討

2023年度 教職センター 活動報告

(1) プロジェクト名 〈 教育実習プロジェクト 〉

活動内容

1. ねらい

学生に対して：実習に必要な環境整備を行う。各学生の実習についての希望と資格の把握、等実習にむけての学生の状況の把握を行う。教育実習実施に向けての学生の指導を行う。

教員に対して：教育実習についての情報提供と実習実施への具体的な働きかけを行う。

教育委員会に対して：実習協力校についての状況確認と新たな実習協力校の開発を行う。本学の教育実習体制についての理解を得られるように情報交換を行い、緊密な協力体制を築いていく。

教育実習予定校に対して：実習希望学生が実習を十分行えるために依頼等必要な対応を行う。

2. 実施内容

全体的な仕事として

- ・教育実習の実施における各種作業を行う。
- ・柏市教育委員会との連絡。
- ・開智学園各学校等の連絡。
- ・教育実習実施校との連絡
- ・教員と教務学生課との連絡体制の調整。

1年生に対して

- ・4月のガイダンスにて、教育実習関係についての事務的なスケジュールの通知を行う。

2年生に対して

- ・1年生の2月の内に教育実習についてのアンケートを行い、実習についての資料を得る。
- ・母校実習を行う学生の依頼状況把握と依頼の補助。

3年生に対して

- ・5月頃までに実習校の配置案の作成
- ・実習実施にむけての指導。
- ・教育実習資格の確認と対応。
- ・ボランティア状況についての確認。

4年生に対して

- ・教育実習実施と個別指導

3. 2024年度に向けて

今年度から教育実習の実施方法の見直しについて動いてきたが、来年度以降、より具体的に動きが予想される。本学のみならず柏市教育委員会等と密に連絡を取り合いながら、学生にとってよりよい学びとなるよう教育実習を見直していきたい。

2023年度 教職センター 活動報告

(2) - 1 プロジェクト名〈インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト〉 (初等教育専攻)

活動内容

1. ねらい

学校の教育現場を観察したり参加・実習したりすることで、教員の仕事をより理解するとともに子供との関わり方を学び、教員になりたいという意欲を高め、自分なりの課題をもつ。

2. 実施内容

(1) 学校ボランティア等

① 教育実習予定校

3年生で4年次に教育実習を行う学生が、教育実習予定校（内諾を得ている学校）と相談しながら、週1日のペースを目安に学校ボランティアに取り組んだ。

② 併設小学校（開智望小学校）

要請に基づいて、主として1・2年生で希望する学生が取り組んだ。

・学童保育（のぞみクラブ）の指導員

令和5年6月30日（金）、メールにて案内を発出した。希望者は「勤務日・時間」を相談する必要があるため、開智望小学校の担当者に直接連絡するよう伝えた。

・学校説明会等での学生サポート

令和5年7月8日（土）6名

令和5年8月20日（日）5名

令和6年1月13日（土）6名 の学生が参加した

③ 併設小学校（開智所沢小学校）

要請に基づいて、入試に係る業務に希望する学生が取り組んだ。

・令和5年9月23日（土・祝）、8名の学生が参加した。

④ 併設中学校等（開智中学校及び開智所沢中等教育学校）

併設校の要請に基づいて、併設中学校等の入試に係る業務に希望する学生が取り組んだ。

・令和6年1月10日（水）、1月11日（木）、1月15日（月）の3日間、延べ36名の学生が参加した。

(2) 運動会の見学（5月）

令和5年5月20日（土）4名の学生が参加した。

(3) 集中インターンシップ

1年生を対象に集中インターンシップ（4日間連続）に取り組んだ。

A班 令和6年2月13日（火）～2月16日（金） 12名

B班 令和6年2月19日（月）～2月22日（木） 15名 の学生が参加した。

3. 2024年度に向けて

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことで行動制限がなくなったとは言え、実際には新型コロナウイルス感染症を発症する学生や児童生徒がいなくなったわけではない。そのため、今年度も様々な活動を制限せざるを得なかった。来年度は、なんとか公開授業の参観や柏市内の小学校等で行われる授業研究会に参加できる機会を確保し、インターンシップ・ボランティア活動の一層の充実を図っていきたい。

2023年度 教職センター 活動報告

(2) —2 プロジェクト名〈インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト〉 (中等教育専攻)

活動内容

1. ねらい

1年：さまざまな経験を通じて、〈職業としての教員〉を知り、理解する。教員になりたいという意欲を高め、各自の課題を発見する。

2年：教科に特化したさまざまな経験を通じて、教育と教員の現状を理解する。課題を意識しながら、自分なりの教師像をつくる。

2. 実施内容

4月、開智日本橋学園中学校・高等学校の担当者と打ち合わせを行い、実施計画の詳細を策定した。新型コロナウイルス感染症等の流行に留意しながら、大学の後期授業再開前の9月に集中実施すること、また文化祭への参加等について合意した。

5月24日 インターンシップ説明会を実施。

5月～6月 参加者を募集。

7月26日 インターンシップ直前説明会を実施。

9月4日(月)～9月15日(金)(9月9日土曜日を除く9日間。最終日は予備日)。中等インターンシップ実施。参加学生は、各自自分の専攻(国語・英語・社会)の授業を選択し、引き続き体調管理に注意を払いながら、授業見学を行った。参加予定者は31名(学年別：1年生11名、2年生14名、3年生6名、専攻別：国語18名、英語11名、社会2名)。

9月「開橋祭」(実施校文化祭)開催。参加希望者が居なかったため本年度は参加未実施。

10月 インターンシップについての参加学生のフィードバックを行い、実施校担当者と共有した。

3. 2024年度に向けて

3年生にも参加を募ったことで、昨年度に引き続き学年・専攻混成の小グループに分けての実施となった。上級生にメンターの役割を担ってもらうこの方法は、比較的うまく機能しているように思われる。中等教育社会専攻が新設され、三専攻の体制となったことより、専攻に応じた授業見学の大学の学修へのよりよい貢献が見込まれるいっぽう、インターンシップ実施後、学生はすぐに後期の授業にかかり切りになるため、フィードバックの行い方に工夫の余地がある。

学校ボランティアの実施例が少ない中等教育専攻の学生たちにとって、インターンシップは教育実習に繋がる重要な活動である。来年度は教育実習の準備の一環として、実施校との連絡の仕方、実施に臨む姿勢やマナーなどの指導をより積極的に行っていくことも一つの可能性だと感じている。

2023 年度 教職センター 活動報告

(2) —3 プロジェクト名〈インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト〉 (中央区柏学園)

活動内容

1. ねらい

教職実務の経験を積むための入門として、学校現場における体験・ボランティア活動に取り組むことにより、学校現場や教員の仕事に対する理解を深め、教員の資質を高めることを目的としている。

具体的には、中央区立小学校の児童が自然体験や共同生活を体験する移動教室「セカンドスクール」での研修や、農作物の収穫等の活動への参加を通じて、学生が実地における体験活動・ボランティア活動を行い、教職に対する理解を深める機会とすることを想定している。

2. 実施内容

(1) 年間活動内容

月/日	事項	内容
4/10	ボランティア活動参加依頼	中央区教育委員会へメールにて 「柏学園でのボランティア活動参加依頼」
4/26	挨拶	柏学園へメールにて 本年度のボランティア活動について
5/25	表敬訪問・打ち合わせ	柏学園にて ボランティア実施日について打ち合わせ
5/26	前期ボランティアに関する連絡	1年生から4年生へメールにて
5/31	前期ボランティア 活動説明会・希望日調査	教職センターにて -googleフォームにて応募開始
6/20. 21. 22	前期ボランティア活動	1週間前を目安にボランティア数を学園長へ報告 ボランティア当日の引率・帰校時の対応
8/23	打ち合わせ	柏学園へメールにて 後期ボランティア実施日について
9/15	後期ボランティアに関する連絡	1年生から4年生へメールにて
10/4	後期ボランティア 活動説明会・希望日調査	教職センターにて -googleフォームにて応募開始
10/26. 31 11/1	後期ボランティア活動	1週間前を目安にボランティア数を学園長へ報告 ボランティア当日の引率・帰校時の対応
12/6	来年度に向けて	担当係 振り返り
3/未定	来年度に向けて	学園長と打ち合わせ予定

(3) 参加者内訳

6月20日(火)	明石小学校	5名
6月21日(水)	月島第一小学校	5名
6月22日(木)	明正小学校	6名
10月26日(木)	月島第2小特別支援学級	3名
10月31日(火)	銀座中特別支援学級	4名
11月1日(水)	銀座中特別支援学級	4名

3. 2024年度に向けて

① ボランティア活動日・活動回数・活動時間・内容について

柏学園の利用がこれまでの2泊3日から、日帰り又は一泊での利用に変更になった。朝、東京都を出発し、お昼前に柏に到着し、日帰りで夕方に東京に帰るかまたは一泊するというスケジュールが多くなった。よって、柏学園での生徒たちの活動時間や活動内容が変わることになった。

ボランティア活動のスケジュールを立てることが難しくなり、今回は前期3回、後期3回計6回に午後1時からの活動となった。連泊することがなくなったため、ボランティア活動の内容にも変化が生じ、飯盒炊飯やカレー作りは行われなくなった。

来年度もおそらくこのような状態が続き、午後からの活動になることが予想される。

② 参加人数について

全6回のボランティア活動に、延べ27名が参加した。その専攻別の内訳は、中等10名(国語9・社会1)、初等17名であった。昨年度に比べ初等の学生の参加が増えた。

学年別内訳は、1年生の参加が前期11名、後期5名(内2名前期も参加)。2年生0名。3年生前期4名、後期7名(内4名が昨年も参加)。4年生0名であった。来年3年生になる現2年生の参加を来年促したい。

③ その他

説明会にてボランティア活動希望日を同時に行った。その結果、連絡事項等の周知の徹底を図ることができた。

麻疹に関する基準が変更になったため、前期では、1年生の諸手続きに時間がかかったが、後期には改善された。

2023年度 教職センター 活動報告

(2) - 4 プロジェクト名〈インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト〉 (柏市ボランティア活動)

活動内容

1. ねらい

柏市教育委員会が実施する「放課後子ども教室（ステップアップ学習会）」、「夏休み子ども教室」、及び柏市が実施する「かしわみらい子供学習会」に、希望する学生が参加することで、教員としての資質を向上させることをねらいとする。

- ・柏市放課後子ども教室（ステップアップ学習会）は、子ども達の学習意欲の向上と学習習慣の定着を目的として柏市内の小学校で実施されている放課後の学習会である。学生は、本学近隣の柏市立第五小学校において、学習アドバイザーとして参加するもの。
- ・「夏休み子ども教室」は、放課後子ども教室の一環として柏市教育委員会が主催する、子ども達の知的好奇心を引き出す機会を提供するもの。
- ・かしわみらい子供学習会は、小中学生（小学4年生～中学2年生）を対象に、学校の宿題などの学習サポートやイベントなどを通じた生活支援を行う事業である。学生は、市役所に直接申し込み面接を受け、ボランティア等として参加するもの。

2. 実施内容

【柏市放課後子ども教室（ステップアップ学習会 柏市立第五小学校）】

- 4月 柏市教育委員会との事前の連絡・調整、及び学生に向けての情報提供と学習アドバイザー希望者の募集をかけた。
- ・令和5年5月8日（月）、メールにて改めて学生募集をかけた。
 - ・希望者リストを作成した。
- 5月 学生向けガイダンス及び学習アドバイザー登録会を開催した。
- ・令和5年5月17日（水）12：15～12：50
柏市教育委員会生涯学習課担当職員を招き、事業説明と学習アドバイザーとしての心得等を直接話していただき、17名の学生が登録手続き等を行なった。
- 6月～2月 ステップアップ学習会の学習アドバイザーとして活動した。
- ・毎週木曜日 13:30 ~15:30
 - ・年間19回の実施（第1回 令和5年6月1日～第19回 令和6年2月29日）
※ 学習アドバイザーとして参加した学生は、毎回「学校ボランティア・インターンシップノート」に記入し振り返りを行い、土井に報告した。
- 3月 柏市教育委員会生涯学習課担当職員と今年度の活動を振り返った。

【夏休み子ども教室（柏市教育委員会生涯学習課主催）】

理数ゼミナール（千葉、永山）、2年ゼミナール（川嶋）の協力を得て、以下の講座を開催した。

- ・令和5年7月28日（金） ※ 中央公民館
【小学校1年生～3年生対象】10時～11時15分
（内容）「電気と磁石で遊ぼう」 静電気や電池、磁石を使ったものづくり、科学遊びを楽しむ。
- ・令和5年7月28日（金） ※ 中央公民館
【小学校4年生～6年生対象】13時30分～14時45分
（内容）「科学実験～電気と磁石の力～」 電気、磁石の力を応用した物づくりを実験する。
- ・令和5年7月28日（金） ※ 中央公民館
【小学校1年生～6年生対象】10時～11時30分、13時30分～15時
（内容）「立体もけいづくりA・B」 ストローで立体模型を作る。調べたり、作品にしたりして楽しむ。
- ・令和5年8月25日（金） ※ リフレッシュプラザ柏
【小学校1年生～6年生対象】10時30分～11時30分
（内容）「手話でコミュニケーションを取ってみよう」 手話による自己紹介に挑戦してみる。

【かしわみらい子供学習会（柏市内の公共施設）】

4月 本事業の内容、応募の方法等について、ガイダンスウィーク等で説明した。

- ・希望する学生は、柏市HPより直接申し込むよう伝えた。

3. 2024年度に向けて

各事業に参加した学生は、熱心に取り組んでくれた。生涯学習課等の担当者からも高く評価されるとともに事業運営について感謝された。学生は、子供との関わりを学ぶことができ、教育学部の学生として自己課題、研究課題を明確にしたりつかんだりすることができ、有意義なボランティア等になったと振り返っていた。

学生の募集に当たって、応募したい学生が多くいるものの、授業と重なり申し込むことができない学生も少なくない。特に、柏市放課後子ども教室（柏第五小学校ステップアップ学習会）は、毎週木曜日の午後に開催されることが決まっているものの、この時間帯に授業が空いている学生は極めて少ない。学生を集めるのが難しい状況である。教育実習等の学びの場を提供してくれる柏市との連携を一層深めていかなければならないという視点から、大学の時間割を配慮することはできないか、今後検討していく必要があると考える。

2023 年度 教職センター 活動報告

(3) — 1 プロジェクト名 〈 東京教師養成塾 〉

活動内容

1. ねらい

社会の変化や子供・保護者の願いを的確に捉えられるよう、豊かな人間性と実践的な指導力を兼ね備えた人材を学生の段階から養成するという東京教師養成塾の目的に応じて、大学教育における理論と、養成塾における実践を往還させ、学校が求める実践的な指導力を有した教員を養成・輩出するとともに、他の学生への意欲付けと情報提供の一助とする。さらに、東京教師養成塾連携大学として、東京都教育委員会とのつながりを保ち、東京都教員採用試験を受験する学生への情報提供等に資する。

2. 活動報告

(1) 東京都教師養成塾担当として東京都教育委員会との連携に関する職務

- ① 東京都教育委員会と連携大学との連絡会出席（年間3回） 7月 11月 2月
- ② 東京教師養成塾に関する初等教育専攻1・2年生への広報・周知活動※説明会、公開講座の紹介

(2) 第20期塾生（鈴木大介）に係る業務

- ① 特別教育実習（指定校）担当教員（佐久間先生）への連絡、連携
- ② 塾生の所属ゼミ担当教員（佐久間先生）との連絡調整、連携
- ③ 指定校（葛飾区立道上小学校）との連絡・訪問補佐

(3) 1・2年年生への広報・周知活動

- ① 4月1年ゼミ、2年ゼミのガイダンスで東京教師養成塾について資料配付・説明
- ② 入塾希望者との相談、選抜に関する対策 等

(4) 21期塾生に係る業務

- ① 21期塾生募集、選抜
 - 3年生に周知を行い、入塾希望者募集：4月 ⇒※21期生希望者無し

3. 2024年度に向けて

(1) 東京都教師養成塾担当として東京都教育委員会との連携に関する職務

- ① 東京都教育委員会と連携大学との連絡会出席
- ② 東京教師養成塾 塾生募集に係る業務
 - 初等教育専攻1・2年生への広報・周知活動
 - 2年生入塾希望者募集
 - ※説明会、公開講座の紹介

(2) 22期塾生に係る業務

- ① 22期塾生募集、選抜
- ② 22期生入塾者決定後の対応（選抜合格者決定後）

2023 年度 教職センター 活動報告

(3) ―2 プロジェクト名 〈 ちば！教職たまごプロジェクト 〉

活動内容

1. ねらい

「ちば！教職たまごプロジェクト」は、公立学校教員を志望する大学生、短期大学生及び大学院生を対象に、千葉県教育委員会教育事務所地区ごとの研修会や、県下の小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校（県立及び市立）での実践研修等を体験する機会を提供することにより、教職への理解を深め、教員としての資質・能力を高めるとともに、採用後の教職員研修との円滑な接続の実現を目的としている。具体的には、学生が個人の資格で県教委に研修希望届けを出し、採用されれば、①学級担任の補助、②学校行事の補助、③学校維持管理の補助、④PTA 活動、保護者会活動の体験等の実践研修を受ける。

2. 実施内容

本学学生の 2023 年度の本研修への参加者はいなかった（県教委、学生からの連絡なし）。

2024 年度の募集及び採用決定は 2023 年度内に実施されているため、以下では 2023 年度内の取り組みを報告することにする（ただし、本学学生にかかわる部分のみ）。

① 研修対象者

大学 3・4 年生を対象とし、就職先として公立学校教員（必ずしも千葉県・千葉市を志望する学生でなくてもよい）を志望し、小学校あるいは中学校教諭普通免許状を所有又は取得見込みの者。

② 活動回数等

原則として年間を通して活動ができ、1 日単位で 20 回以上の実践研修が可能な者。

・大学 3 年生及び大学院 1 年生から参加する場合は、原則 2 年間継続することとする。

・大学 4 年生から参加する場合は、1 年間とする。

③ 募集人員

1700 名程度（小学校、中学校、義務教育学校：1520 名程度、特別支援学校：180 名程度）

④ 受付期間

2023 年 11 月 20 日（月）から令和 2023 年 12 月 11 日（月）まで

⑤ 申し込み方法

申込については、申請者が申込書を作成し、インターネットを經由して提出する。

⑥ 研修実施期間

2024 年 5 月 20 日（月）から 2025 年 3 月 21 日（金）まで

なお、2024 年度募集から、上記の 2 年間の研修を受け、所定の要件を満たした学生については、千葉県公立学校教員採用候補者選考試験において、第 1 次選考で以下のような優遇措置を受けることができる。

第一次選考で受ける選考内容	加点の内容
「専門教科」を受ける者 ※小学校併願で加点を希望する者も含む。	合計点数に5点加点
「小論文」を受ける者 ※小学校併願で加点を希望する者は除く。	小論文の評価を1段階繰り上げ

また、2023年度の主な活動は以下の通りである。

- ・6月28日：千葉県教育委員会東葛飾教育事務所を訪問し、管内における「ちば！教職たまごプロジェクト」実施実態と来年度の制度変更に対する対応、教育実習との関係について意見交換をした。
- ・11月6日：2年生対象教職ガイダンスにおいて「ちば！教職たまごプロジェクト」の概要説明を行い、積極的参加を促す。
- ・12月8日：柏市教育委員会を訪問し、教育長及び指導課長に面会し、従来通り本学学生を教育実習生として受け入れていただくことを継続し、「ちば！教職たまごプロジェクト」に対しても柔軟に対応していただける旨の前向きな回答を得た。

3. 2024年度に向けて

2024年度の本研修に申し込んだのは、10名であった。

本研修は、上記「2」にあるように、2024年度から実施内容や教員採用試験の際の取り扱いが大きく変更になる。したがって、本学においては、教員志望学生に研修の機会を与え、教職に対するモチベーションを上げると同時に、教員採用試験における優遇措置を有効に活用するためにも、積極的に参加を呼びかけたい。

2023年度は、県教委からの制度変更等に関わる情報伝達が遅れたため、学生に対する情報提供が十分ではなかった。2024年度は、事前に情報収集に努め、学生に対して積極的に参加するように促したい。

2023 年度 教職センター 活動報告

(4) プロジェクト名 〈基礎学力向上・教員採用試験対策プロジェクト〉

活動内容

1. ねらい

都県が実施する教員採用試験の合格を目指して、必要な基礎学力の向上を図りつつ、一般教養、教職教養、専門教養、論文、面接等の試験に合格する実力をつける。

2. 活動内容

【4年生対象】

- ・4月5日(水)に、教員採用試験直前対策に関する講演会を開催(講師:時事通信出版中川様)。
- ・4月13日(木)に、千葉県教育委員会の協力を得て、教員採用試験に向けた説明会を開催した。
- ・4月から7月上旬(1次試験まで)は、教員採用試験予想問題、模擬面接、模擬論文に取り組んだ。
- ・7月下旬から8月中旬(2次試験前々日まで)は、1次試験合格者を対象に、2次試験対策として、2週間の集中講座を開催した。

【3年生対象】

小学校・中学校教員コース共通

- ・10月～翌年2月 オンラインによる教職教養の全20回の講座を開催した。また、2月～3月に教職教養の集中講座を全6回開催した。(外部委託:時事通信社)
- ・10月～翌年3月は、教員採用試験対策校内テスト(過去問)、模擬面接、模擬論文等に取り組んだ。

小学校教員コース

- ・6月～10月は、週1回、小学校専門を中心に全20回の講座を開催した。また、2月～3月に算数・数学、理科に特化した集中講座を全6回開催した。(外部委託:時事通信社)

中学校・高等学校教員コース

- ・6月～8月は、オンラインによる教科専門科目(国語、英語)を中心に全10回の講座を開催した。(外部委託:時事通信社)

【1・2年生対象】

- ・ゼミⅠ・Ⅱに基礎学力向上のための時間を増やし、通年を通して、教員採用試験の前提となる基礎学力の向上を図るため、日本語検定及び TOEIC(英検)の受検に向けて学習に取り組んだ。
(日本語検定講座各5回・TOEIC(英検)の受検に向けて学習各5回)

3. 2024年度に向けて

- ・ゼミⅠ・Ⅱの基礎学力向上のための時間を増やしたが、時期によって、本来行っている活動に影響が出ることがわかった。基礎学力、アカデミックスキル、探究が相互に生きるような計画を立てたい。
- ・3年生対象の教採オンライン・ライブ講座は効果が上がるように、教科、内容、時期を見直す必要がある。4年生対象の活動も教員採用試験の早期化に対応できるよう、計画し直す。

2023年度 教職センター 活動報告

(5) プロジェクト名

〈 民間企業・公務員(教員を除く)等を目指す就職指導プロジェクト 〉

活動内容

1. ねらい

キャリアセンターと連携し、民間企業及び教師を除く公務員を目指す学生のサポートを行う。また、教員採用試験の受験と民間企業への就職活動を二本立てで検討する学生についてもキャリア支援を行う。

2. 実施内容

4月5日：3学年ガイダンス時に、参加可能な学生は、前期「インターンシップ」、後期「キャリアデザインⅣ」を受講するように促す（※単位は認定されない）。また、夏期休業期間中は、自ら進んでインターンシップに参加するように促す。

4月13日：1～3学年「資格ガイダンス」実施。

4月26日：1・2学年「インターンシップ説明会」実施。

4月～5月：3学年「就職サイト登録会」を含む「インターンシップ・ガイダンス①～③」実施。

4月27日：3学年「個人面談」の申込を開始。

5月22日：1～3学年「公務員ガイダンス」実施。

5月24日：1～3学年「公務員1day 職場見学説明会」実施。

5月25日：1～3学年「証明写真 撮影会」実施。

5月31日：「柏市役所職員（本学卒業生）による仕事説明会」実施。

6月1日：3学年「就活スタートアップセミナー」実施。

8月：「柏市役所」「ハローワーク松戸」にて、1day 職場体験を実施、1年生、3年生の参加者あり。

8月：2学年対象「個人面談」の申し込みを開始。

11月2日～30日：3学年「業界研究会①～④」について告知し、参加を促す。

2024年1月：資格取得推進の一環として、TOEIC IPテストについて、受験を促す。

※ 木曜5限、ランチタイムにガイダンスを実施。アナウンスし参加を促す。

※ 随時実施される外部就活イベント（キャリアセンター職員同行）について、開催時にアナウンスし参加を促す。

3. 2024年度に向けて

今年度は、新校舎の学生ラウンジ横へのキャリアセンターの移動、センタースタッフの尽力の双方が功を奏し、学生にとってのセンターの利用し易さは大幅に増加した。また3学年対象の就活のスタートアップも早まり、積極的な参加への流れができた。今後もこの流れを生かし、1～2学年からのセンター利用を促進し、キャリアセンターと緊密に連絡しあって民間就職、教員以外の公務員を目指す学生をフォローしていきたい。

2023 年度 教職センター 活動報告

- (6) プロジェクト名 〈「開智国際大学教職センター研究年報」〉
(「教職センター研究年報 2023」号刊行)

活動内容

1. ねらい

教職センターの 2022 年度の活動内容を総括し、センター員による研究成果としての論文・報告等を掲載することを目的に「開智国際大学教職センター研究年報 2023(通巻第 6 号)」を刊行する。

2. 実施内容

- (1) 「開智国際大学教職センター研究年報 2023 (通巻第 6 号)」(以下「年報 2023」と略称)の刊行。

①2022 年度教職センター活動報告 ②センター員の研究論文・報告 ③資料編

- (2) 「年報 2023」の刊行予定時期および方法等

① 2023 年 2 月下旬 ②紙媒体のみ

③ 教育学部を有する近隣大学を中心に教育関係諸機関に送付

- (3) 予算申請額：250,000 円

- (4) 2023 年度の活動内容

- 4 月～5 月 ・「開智国際大学教職センター研究年報 2022 (通巻第 5 号)」刊行の振り返り
・「年報 2023」の構成、刊行までの日について決定。センター員への周知
・「刊行規定」および「投稿規定」の確認とセンター員への周知
- 10 月 ・「研究論文」「報告」の原稿募集案内および「投稿事前申し込み」の受付開始
・原稿執筆用専用テンプレートの書式確認
・「教職センター活動報告」、各「プロジェクト報告」、「資料集」等の原稿執筆依頼
- 11 月初旬 ・「研究論文」「報告」への「投稿事前申し込み」締め切りと「正式申し込み」受付
- 1 月～2 月 ・総頁数、発行部数、印刷・製本費の概略、調整、複数業者への見積もり書提出依頼
印刷・製本業者の決定、納品日等の交渉、発注
・執筆者校正(1 回)と編集作業
・執筆者最終修正・確認用 PDF 版の作成、発注用 PDF 版完成形の作成
- 3 月下旬 ・「年報 2023」刊行(奥付：3 月 21 日)
・教職センター会議にて「年報 2023」刊行を報告、関係諸機関への発送作業

3. 2024 年度に向けて

「投稿規定」のうち、論文・報告に関する次の 3 点について担当者で見直しを行い、必要であれば改定案を作成して教職センター会議に諮りたい。

① 投稿資格について ②論文・報告の文字数について ③執筆用テンプレートの頁数

2023 年度 教職センター 活動報告

(7) プロジェクト名 〈 介護等体験 〉

活動内容

1. ねらい

小・中学校教諭の普通免許取得希望者に対し、介護等体験が義務付けられている。その意義を理解し、社会福祉施設や特別支援学校等での体験を通じて、教員としての資質の涵養をねらいとする。

2. 実施内容

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、介護等体験代替措置について文部科学省より通知があり、運営会議にて承認された代替措置(4)を実施した。

代替措置(4)：在学する大学等において、令和4年度に(独)国立特別支援教育総合研究所が開設する免許法認定通信教育の科目に係る印刷教材の学修の成果を確認する。

対象者：62名

運営方法：Google Classroomに「介護等体験」のクラスを開設し、教材の配布、学修報告書の回収、学生への指導（フィードバック、質疑応答等）をおこなう。

教材：「聴覚障害児の教育課程及び指導法（令和5年度前期・全15回）」

（「同意書兼利用態様届出書」を事務局より文部科学省に提出）

課題：聴覚障害児の教育課程及び指導法に関する学修報告書(学修の成果(600～800字)と将来の展望(600～800字)」を提出する。

評価：「学修報告書」の内容に基づき判定する。

事務手続き：「介護等体験代替措置完了証明書」（署名・押印）を発行する。

7月5日 ガイダンスの実施

代替措置(4)についての説明を行った。

- ・教材の配布
- ・課題の説明と取り組み方の指導
- ・「学修報告書」の提出方法の説明（提出期限：9月10日）
- ・判定後の手続きについての説明（「介護等体験代替措置完了証明書」への署名・押印）

参加：60名

遅刻者を除く 58名を本年度の対象者とした（遅刻者2名は本年度の対象外とした）。

欠席(事前連絡無し):2名 → 本年度の対象外とした(「介護等体験の手引き」参照)。

11月中旬 第1回判定

提出された「学修報告書」の判定を行った。

合格：45名

不合格(要再提出)：13名(再提出期限は12月31日)

学生へのフィードバック方法について確認した。

- ・事務局より判定結果を学生に通知する。
- ・「優良レポート」(3名)を本人の了解を得て全体共有する。

1月中旬 第2回判定

再提出された「学修報告書」の判定を行った。

合格：13名

1月17日 フォローアップ

介護等体験のフォローアップとして、特別支援学校についてより具体的に学ぶ機会を設けた。

目的：特別支援学校について、視聴覚教材を用いてより具体的に学び、特別支援教育についての理解を深める。

日時：2024年1月17日(水) 12:20-12:50 (4201教室)

内容：視聴覚教材の視聴(約30分)

教材：DVD『教育実習』第2巻 特別支援学校 橋本創一・櫻井眞治(監修)

課題：Classroomに感想文を提出する(400字程度)(提出期限：1月31日)。

【2023年度の最終結果】

合格：58名

対象外(ガイダンス遅刻・無断欠席)：4名

3. 2024年度に向けて

2024年度参加予定者を対象に、2023年度末(1月17日)に第1回ガイダンスを実施した。「2024年度介護等体験の手引き」を作成・配布し、全体概要の説明、および、福祉人材センターへの登録手続きを実施した。

2024年度は社会福祉施設と特別支援学校において対面実施となる。社会福祉施設での実施のための福祉人材センターへの登録期限が早期化されており、早急な対応が求められた。特別支援学校については、受け入れ校の新規開拓に伴い、相互の信頼関係の構築と維持発展に努めることが強く求められる。特に、事前のガイダンス(9月予定：特別支援学校について)において、他者とのコミュニケーションに関するワーク等の演習を実施することが望ましい。

以上

2023 年度 教職センター 活動報告

(8) プロジェクト名 〈 Learning Commons 〉

活動内容

1. ねらい

昨年度までは、LC を物理的な空間として捉え、いかにして学生が集える場を提供し、その中でいかにして学修に繋がられるかを考えて試行錯誤してきた。昨年度には、LC 企画として週 1 コマの勉強会を実施し、10 名弱の学生が参加した。こちらから呼びかけた結果ではあるが、参加者の希望により、この勉強会は長期休業期間も定期的に継続された。特筆すべきは、担当教員が所用で一定時間不在であっても、学生同士が教え合いながら学修を進めていたことである。それでも解決しなかった場合、担当教員が戻ってきたときに質問するという形で進められた。

限られた学生が対象となった活動ではあったが、LC という物理的空間は今後も十分に機能するであろうと考えられる。時空間を共有したコミュニケーションによる学修スタイルに馴染んできた学生にとっては、「教え合う」ことでモチベーションが喚起され、積極的に課題にコミットしていたものと推察される。

ただ、参加の意思がありながら、なかなか参加できなかった学生がいたことも事実である。部活やアルバイト等、個々の融通が利く時間は限られている。LC のさらなる活性化を進めると同時に、「参加したいが参加できない」学生に対して、時空間の制限のないような場を提供していく必要がある。

そのことを踏まえ、昨年度までの LC は継続する。すなわち、教職センター内に LC を設ける。そして、LC 企画を継続して実施し、教育学部生の間での学修文化を作っていく。本年度より、教職センター自体が 4 号館の 1 階の、学生ラウンジに近接したところに移動するため、これまでの学生の動線から外れたところではなく、気軽に立ち寄れる場所に移動したことを有効に活用していきたい。

その一方で、Virtual Learning Commons (VLC) についても模索していきたい。現在 LC の Google Classroom は立ち上がってはいるものの、学生の SNS 使用の状況からは、機動性が低いと言わざるを得ない。学生の声を聴きながら、機動性のある VLC を立ち上げたい。VLC での活動の構想としては、1) 各自が学修を進める中で理解ができない事項や問題を VLC 上に投げる、2) 説明できる学生が解答する、といったものである。「YAHOO! 知恵袋」のようなイメージではあるが、LC 担当教員もそこに参加し、Q & A をモニターできるようにする。運営していく中で、いろいろと問題が生じてくるかも知れないが、都度、学生と相談しながら、ルールを作るなどの改善を図っていくつもりである。

2. 実施内容

LC 企画として参加した学生は全員 4 年生であったが、2023 年度の教員採用試験まで活動を継続した。また、教員採用試験を控えた 4 年生や前倒しの教員採用試験受験の 3 年生が、LC 企画とは別に、自主的に LC を利用するようになった。ごく一部の学生ではある

が、教職センター自体が4号館の1階の、学生ラウンジに近接したところに移動したことに加え、開室時間を月曜日から金曜日までの8:30~18:30とし、出入り自由としたことの影響がかなり大きかったと言える。LCの開放については、備品等の盗難や溜まり場になるのでは等、それなりに懸念事項もあったが、治安は維持されているものと思われる。

その一方で、VLCについては手つかずのままとなってしまった。ひとえに担当者の実行力の欠如に起因している。ただLC企画として参加した学生においては、自主的にLINEをつくり、そこでQ & Aを展開していた。

3. 2024年度に向けて

- 1) 2023年度同様、LCの開放は継続する。
- 2) LCの本来的目的上、LC企画は、希望する学生からの要請がない限り立ち上げない。
- 3) LCの目的・利用方法等、学生への周知を図る。
- 4) とりあえず初等の2・3年生を対象にVLCを立ち上げ、学生の動向を探る。重要なのは、学修の場を提供することにある。

教育実習校選定の指針（2023年度）

【教育実習の時期・条件・実習校先】

- ・教育実習は、4年次6月ごろを考えています。
 - ・初等4週間、中等3週間です。
 - ・初等と中等(中・高校)では教育実習の進め方は異なります。
 - ・本学の場合、初等の場合、原則母校での実習は行いません。
 - ・中等(中学・高校)の場合は、母校実習を行う場合もあります。
 - ・今後の実習校の依頼と配分については、教育学部『ガイドブック 2023』に示した「修得すべき科目」を履修し、そのうえで成績、日常性も含めて判断される「大学推薦」を受けた学生に限ります。誰でも自由に、母校などで教育実習を行えるわけではありません。
- GPA：原則 2.6 以上（教職専門科目）

以下、実習先の配分について示します。

【初等の場合】

- A. 小学校教員採用試験を受験する予定者で、「大学推薦」を受けたもの。

原則、受験予定の採用試験の都府県にしたがって、大学が実習先を配分します。

- ・千葉県の実験希望者 — 柏市立公立小学校
 - ・東京都の実験希望者 — 東京都中央区立小学校等での教育実習を中心に考える
(日頃より、実習を希望する小学校でのボランティアに参加しておくことよい)
 - ・埼玉県の実験希望者 — さいたま市を中心とした地区の公立小学校
 - ・茨城県の実験希望者 — 県主催の研修会に参加(夏休みすぐの1週間)後、決定する
 - ・その他の県の実験希望者 — 教育実習担当教員と相談の上、決定していく。
- 教育実習とのセットとしてボランティアをすることが受け入れの条件となる。実習効果も上がる。

- B. 採用試験を受験する予定で、A以外(私学希望者・その他)の教育実習希望者

- ・系列校実習 — 開智望小学校・開智小学校（総合部）

- C. 教員採用試験を受けない。しかし教員免許だけ取得したい場合

- ・相談の上、実習先については別途決定したい。
- ・開智グループ小学校での実習となる可能性が高い。開智グループでのインターンシップやボランティアなどの参加が必要になる。

【中等の場合】

A. 教員採用試験受験の予定の学生

- ・ 母校実習を希望するもの — 大学推薦が必要です。
 - ・ 開智日本橋学園中学・高校学校 — インターシップ経験者で「大学推薦」を受けた者
※今後希望調査をいたします。
 - ・ 柏市立中学校を希望するもの — 大学推薦が必要です。
- B. 私学出身で、とくに私学での就職を希望しているものは、母校(私学)実習になります。
※至急各自が直接に母校へ連絡する。

■ 母校での教育実習は、以下の手順で決定されます。

- ① 母校への問合わせ (1年の春休み・2年の夏休み等を利用して母校を訪問する) →
- ② 内内諾 (口頭の約束) をもらう →
- ③ 大学へ状況報告書を提出 (2年次の12月) →
- ④ 3年次の4月末までに改めて「内諾」をいただく →
- ⑤ 正式な「教育実習参加登録」を行う →
- ⑥ 大学より実習校へ「内諾依頼書」を発送 →
- ⑦ 実習校からの受け入れ承認 →
- ⑧ 実習校の決定

C. 教員採用試験は受験しない。しかし教員免許だけ取得したい場合。

- ・ 相談の上、実習先については別途決定したい。
- ・ 開智グループ中学校での実習となる可能性が高い。開智グループでのインターンシップやボランティアなどの参加が必要になる。

【教育実習を履修しない学生の場合】

- ・ 教員免許状の取得を本当に考えていないか、決意は固いのかをよく考えてください。
- ・ 現在考えている就職先、職種がはっきりしている場合はどんどん進めていく。

【留意点】

※実習を行うということは、大変な責任を伴います。実習先での生活は、大学の評価として跳ね返ってきます。この点を十分肝に銘じて、今後一層勉学に励んでください。今の学生生活の延長に何となく実習があるものではありません。

※教員免許状を取得しようとする学生は、1年次から単位取得や教員採用試験への準備といった、教職に向けての計画的かつ自主的な大学生活を送ることが必要です。

教職センター